





米國百年期博覽會教育報告卷三

其不其
盲院

米國中盲院ノ數二十九(盲院ヲ設ケサル州アリ) 列稅ヲ以テ維持スル者多ク市廳ヨリ金ヲ給シテ維持スル者亦五六院アリ盲者ノ年尚少クシテ品行端正ナル者其列内ノ盲院ニ入ラント欲スレハ父母或ハ後見人ヨリ先ツ列知事ニ請ヒ其許可ヲ得テ後ニ入院スルヲ得ヘシ盲院

文
卷三
一
六

ハ無謝ニテ教育ヲ與ヘ食住ヲ給ス但シ衣服ハ
自辨セシムルヲ常トス然レトモ貧困實ニ耐ヘ
難キ者ニハ衣服ヲモ給スルコトアリ若シ自己
ノ列内ニ設置セル盲院ヲ措テ他列ノ盲院ニ入
ル時ハ衣食住都テ自費タルヲ法トシ富人ノ子
弟ハ其列ノ盲院ニ入レトモ多クハ列費ヲ仰カ
ス加之仁人ノ寄附金亦少ナカラサルヲ以テ列
立ノ盲院ト雖モ列ヨリ補助セル金額ハ其費用
ノ半ニ過ギサルモノ多シ盲院建築費ノ如キモ
仁人多少ノ金額ヲ寄附シ列政府ハ唯其不足ヲ

補フニ過ス然レトモ列ノ補助ヲ受クル盲院ハ
院長ヨリ年報ヲ作りテ之ヲ列知事ニ出シ列知
事ハ列吏三四名ヲ撰テ盲院理事官ヲ兼テ其教
育法及ヒ金銀出納ヲ監視セシム
世人或ハ盲院ヲ以テ眼病院ト誤解シ眼病人ノ
入院ヲ請フモノアレトモ醫治スヘカラサル盲
者ニ非サレハ入院ヲ許サス入院シタル盲者ハ
大抵院内ニ寄宿セシメ通學スル者ハ甚々稀ナ
リ○盲者ニ授クル學科ハ算術、綴字、習字、讀方、文
法、脩辭、物理、歴史等ナリ總テ盲者ヲ教フルニハ

口授ヲ好シトスルカ故ニ文法、脩辭、物理、歴史等
 ハ大抵口授ノ法ヲ用フ但シ盲者ヲシテ自カラ
 勉學セシムルニハ凸字書ヲ用フ即チ字形ヲ紙
 面ニ凸出セシメタル書ニシテ指頭ノ感觸ニ依
 テ誦讀ス英語之ヲ「ヒキンゲル、リーディング」ト云
 フ指讀義今、凸字書ノ米國ニ行ハル、數百卷、普通
 教科書ノ外ニ百科字典、星學辭書等ノ如キ高尚
 ノ書籍少ナカラス地圖ハ凹凸ヲ以テ山川府邑
 ノ位置ヲ示シ其法、凸字書ニ異ナルコト無シ算
 術ハ多ク暗算ヲ用フレトモ時トシテハ木匣ハナヤシヨウヲ

作り之ニ木製ノ數字ヲ嵌メテ計算スルノ法ヲ
 學ハシムルコトアリ右ニ掲クル學科ノ外、音樂
 唱歌ヲ學ハシム蓋シ盲者ノ音樂、唱歌ヲ學フノ
 用ハ一ニ止マラスト雖モ他日世ニ自立シテ生
 計ヲ営ムノ助トナスヲ以テ第一トス且音樂、唱
 歌ハ自カラ盲者ノ長技ニシテ此一事ニ於テハ
 天特ニ盲者ニ私スルニ似タリ樂器ノ製造ヲ教
 フルモ産業ノ道ヲ授ケントスルノミナラス亦
 音樂ノ真理ヲ究メシムルノ一助ナリ○盲者ニ
 手エテ教フル目的ハ他日世ニ自立シテ産業ヲ

營マシメントスルニ在リ男子ハ刷子、帚、椅子、鹿
 末ナル敷物ノ製造ヲ學ヒ女子ハ裁縫ヲ學フ者
 多ク之ヲ賣テ盲院費用ノ幾分ヲ補助スルニ足
 ル近來訓音家ノ説ク所ヲ聞クニ盲者ヲシテ電
 信ヲ通スルノ術ヲ學ハシメハ其營業上ニ一事
 ヲ増加シ盲者ヲシテ裨益アラシムル疑無シト
 其外盲者ノ手工ハ日月ニ増加シ常人ノ工業ハ
 退テ其幾分カタ盲者ノ手ニ讓ルニ至ル可シ
 波士敦府ノ盲院教頭ドクトル、ハウ氏曰ク夫レ
 盲者ノ常人ニ異ナル所ハ唯目視ル能ハサルノ

多ナリ故ニ盲者ヲ教育スルハ猶常人ニ於ケル
 同トク其目的トスル所ハ精神、道德、身體ヲ發達
 セシムルニ在リ唯盲者ニ適スル書器ヲ用フレ
 ハ之ヲ教育スル難カラズ見ヨヤ盲者ニシテ世
 ニ聲名ヲ鳴ラセシ者少ナカラス皆教育ノ宜シ
 キヲ得ルニ因レリ然ルニ世人或ハ盲者ハ教フ
 ヘカラサル者トシ或ハ父母其子ノ不具ヲ憐ミ
 徒ニ姑息ノ愛ヲ加ヘテ百事皆其欲スル所ニ任
 セ四肢ヲ使用セシメス心思ヲ勞苦セシメス完
 全ナル身體、精神ヲ有スレトモ故サラニ其發達

ヲ妨ケ終ニ世ノ廢人タラシムル者多シ幸ニ我
 米國ニ於テハ盲院ノ數漸次増殖シ其創立ハ今
 ヲ距ル纔ニ五十年ヲ出スト雖モ教育ヲ受クル
 ノ恩澤ニ浴シ自ラ産ヲ營ム者ノ多キ前日ノ比
 ニ非ス歐洲ノ諸國ニ於テハ盲院ノ設ケ既ニ久
 シト雖モ世人盲者ノ薄命ヲ憐ミ路上ニ饑ヲ訴
 フル者アレハ之ニ錢ヲ投シ盲者ト乞丐ト殆ン
 ト同視ス隨テ盲者ハ仁人ノ厚意ヲ空ウシ懶惰
 性トナリ終ニ自立ノ精神ヲ失フニ至ル蓋シ因
 襲ノ久シキ獨リ盲者ヲ咎ハヘカラス亦盲院ノ

數少ナク教育ノ恩澤盲者ニ被及セサルニ因ル
 米國ノ盲人生産ヲ得往々富裕ノ者アルハ盲人
 自立ノ精神ニ乏シカラサルト身ヲ勞スルヲ卑
 ミ心ヲ勞シテ營業セントスルノ氣象アルニ因
 ル音樂師、修辭、論理學ノ教師、法律學士等ハ心ヲ
勞シテ生テ營ム者ナリ米國ニ於テハ盲者此
類ヲ以テ生計トス然レトモ此氣象ノ由テ起ル
ル者少ナカラス所ヲ尋ヌレハ教育ノ宜シキヲ得タルニ在ルコ
 ト言テ待タス故ニ世人ハ盲者ノ教育ニ就テ如
 何ナル思想ヲ下スヤ余ハ知り能ハスト雖モ殆
 ント無用ナル盲者ヲ轉シテ社會中有用ノ人々

ラシムルハ教育ニ非スシテ抑モ何ソヤ之ニ依
テ余ハ深ク教育ノ盲者ニ缺ク可ラサルヲ信ス

啞院

米國ノ啞院ハ列立ニ係ルモノ多ク私立ノモノ
ハ僅ニ二三ニ過キス初メ啞院ハ仁人相共ニ金
ヲ捐テ建設セシモノ多カリシカ貧人ノ子女ハ
啞院ニ入り教育ヲ受クルコト能ハスシテ廢人
ト為ルモノ多カリシヲ以テ列政府ヨリ若干ノ
金額ヲ與ヘテ其費用ヲ助ケ以テ列内ノ啞子ヲ

教ヘシム但シ他列ノ者ニハ在院ノ諸費ヲ拂ハ
シムルヲ法トス○列ノ補助ヲ受クル啞院ハ列
知事自ラ之ヲ監督スルモノアリ或ハ列ノ學監
ヲシテ其管轄ヲ兼攝セシムルモノアリ而シテ
院長ハ年々啞院ノ報告ヲ作りテ之ヲ列知事ニ
呈ス○人口多カラサル諸列ハ盲啞ヲ同院ニテ
教育スル所多シ蓋シ別ニ兩院ヲ設クルノ費用
ヲ省ク為メナルヘシ又鳥渡爾些列ノ如キハ人
口頗ル多シト雖モ列内ニ啞院ヲ設ケス年々若
千金ヲ組育列ノ啞院ニ出シ列内ノ啞子ヲ托シ

テ教育ヲ受ケシム
 啞子ニ入院ヲ許スノ年齢ハ七八歳ヨリ二十五
 歳マテヲ通例トシ之ヲ院内ニ寄宿セシメ通學
 ヲ許スモノハ甚々稀ナリ啞子在院ノ年限ハ平
 均二年以上八年以下ニシテ其間ニ普通ノ教育
 ヲ卒ヘ及ヒ手工ヲ學ヒ得セシム學科ハ普通科
 物理學等ヲ主トスレトモ傍ラ人身窮理、化學、画
 學等ヲ授ケ男女共學ノ法ヲ用フ又女子ニハ裁
 縫ヲ教ヘ年稍ヤ長セル者ニハ院内啞子ノ衣服
 ヲ裁縫セシム男子ニハ園藝、造靴、植字等ヲ授ケ

男女各家ニ歸ルノ日自ラ生活スルノ助トナサ
 シム○博覽會各州教育出品場ニ啞子ノ製作シ
 タル物品アリ其精巧常人モ及ハサル所アリ
 啞子ハ固ヨリ言語スルコト能ハサレハ己レノ
 意ヲ他人ニ通セントスルニ記号ヲ用ヒサルヘ
 カラス其記号ハ五指ノ屈伸ヲ用フ例ヘハ掌ヲ
 閉ストキハ^エAノ字トナリ之ヲ開クトキハ^ビBノ
 字トナル等五指ノ屈伸ニヨリテ字形ヲ模シ以
 テ記号トス故ニ啞子ニハ先ツ此記号ヲ教ヘ次
 ニ此記号ニ依リテ他ノ學科ヲ授ク啞子一タヒ

七

此記号ニ熟スレハ其談話ノ迅速ナル常人ノ口
 テ以テスルニ異ナラス然レトモ五指ノ記号ノ
 ミニテハ談話中多少ノ不便ヲ免レサルヲ以テ
 有形ノ物ハ其形ヲ模擬ス例ヘハ牛ト言ハント
 欲スル時ハ兩手ヲ頭邊ニ捧ケテ角アルヲ示ス
 等是亦記号法ナリ蓋シ記号法ハ初メ佛國ヨリ
 起リシヲ以テ呼テ佛國法トシ今米國ニ於テ廣
 ク之ヲ用フ元來啞者ハ發音ノ機關常人ニ異ナ
 ラス唯耳官不具ニシテ他人ノ言語ヲ聞クコト
 能ハサルニ因リ言語ヲ學フニ由無キノミ是ニ

於テ日耳曼ニテハ啞者ニ發音ノ機關ヲ使用シ
 テ言語ヲ發セシムルノ法ヲ發明シ先ツ教師ノ
 唇ヲ動カシテ「エ」ビシ彼國ノ音ヲ發スルヲ見
 之ニ倣フテ唇ヲ動カシ「エ」ビシノ音ヲ發シ得ル
 ニ至レハ此法ヲ用テ漸次其他ノ言語ヲ教ヘ終
 ニハ常人ノ如ク口ヲ以テ談話スルニ至ラシム
 之ヲ日耳曼法ト名ケ或ハ「リップリーデング」唇
 義ト云フ○米國ノ啞院ニ於テハ日耳曼法ヲ用
 フルコト日猶淺ク未タ佛國法ト其得失如何ヲ
 決スル能ハス性來聾啞ナラサル者或ハ稍言語

シ得ル者ニ日耳曼法ヲ試ムルニ其功頗ル多ク
生レナカラ聾啞ナル者モ亦此法ニヨリ談話ヲ
學ヒ得ル者アリ然レトモ此法ヲ教フルハ佛國
法ヲ教フルニ比スルニ年限久シキヲ以テ亦不
便無キニ非ス

千八百七十一年啞子教育家會議ノ時ニ方リ梅
坭所達列ノ啞院監督ノトリス氏曰ク啞子ハ目
視ルコトヲ得レトモ耳聽クコト能ハス口言フ
コト能ハサルカ故ニ啞院ニ於テ之ヲ教ヘサル
時ハ全ク教育ノ途ヲ絶チ國法ヲ知ラシムルノ

道ヲ塞クト一般ナリ實ニ薄命ト謂フヘク啞者
ノ國法ヲ犯スモ其無知ヲ咎ムヘクシテ其人ヲ
咎ム可ラス然ルニ今我米國中啞院ニ於テ教育
ヲ受ケサル啞者少ナカラス啞者ニシテ國法ニ
觸ルハ多ク不學ノ致ス所ナリ若シ啞者ニ施
スニ強促就學法ヲ以テセハ其國法ニ觸ルハ
防クノミナラス亦他日自業ヲ營ムノ助トナル
ヘシ○米國中特ニ啞者ノ為メニ刊行スル每週
新聞六種アリ之ニ依テ考フレハ米國ニ於テ啞
者ノ教育ハ既ニ盛ナリト云フ可シ余輩カ見ル

教育統計表
 所ニ依ルニ啞者ニシテ或ハ商買ノ主管トナリ
 或ハ會社ノ書記タル者往々之アリ若シ啞子教
 育ノ法徹セハ恐クハ無用ノ廢人タルヲ免レサ
 リシナラン

啞院統計表

列	啞院ノ數	教員ノ數	男女生徒ノ數	千八百七十五年 列ヨリ給與金額
雅拉巴麻	一	四	五二	一八〇〇〇
耳剛色斯	一	四	六九	六〇〇〇
嘉理符尼亞	一	四	七四	三六〇〇〇
干雅底格	二	二	二八六	

卓爾治亞	一	五	六〇	六五〇〇
伊利那倚	二	二〇	四四八	七五〇〇〇
音地亞那	一	一五	三四〇	六三〇〇〇
愛約娃	一	九	一七八	三四〇〇〇
剛色斯	一	五	一〇〇	一三四〇〇
建得基	一	五	一〇〇	一七八七七
祿細亞那	一	四	四七	一〇〇〇〇
瑪理蘭	二	八	一〇五	三〇〇〇〇
馬洩朱些斯	二	一四	一五七	一一〇三〇
米世幹	一	一〇	一九七	五一八七二

文部省
 卷三
 十
 文部省

スロハ州内ノ啞子ニシテ在院スル生徒一名毎
ニ州ヨリ百七十五弗ヲ與フ四ハ生徒一名毎ニ
列ヨリ百五十弗ヲ與フ三ハ半年間ニ與ヘタル
金額ナリ

痴院

米國中痴院ノ設ケハ其数僅ニ九ニシテ或ハ州
立或ハ私立或ハ州私相半スル者アリ州私相半
スル者トハ州税若干ヲ以テ私立痴院ヲ補助ス
ル者ヲ云フ國內痴者ノ総数ハ未タ詳カナラス

ト雖モ人口五百人ニ付キ九ツ一人ノ割合ナリ
故ニ痴者ノ数ニ比スレハ痴院ノ設ケ少ナシ
痴子ニ入院ヲ許スノ年齢ハ概テ二十歳以下トス
然レトモ之ヲ教フルニハ其年齢ニ依ラス痴ノ
度ニ從テ等級ヲ分チ最モ痴ナル者ニハ圓形方
形、三角形等ノ穴ヲ鑿チタル板ト其穴ニ符合ス
ル木片トヲ與ヘ木片ヲ以テ穴ニ挿マシメ或ハ
毛布ヲ以テ包ミタル大ナル針シノ如キ物ニ白
堊ヲ以テ牛羊犬馬等ノ形ヲ描キ其形ニ針ヲ刺
サ、シム痴甚シカラサル者ニハ教師黑板ニ日

用ノ語ヲ書シ文字ノ形ヲ認メテ事物ノ義ヲ知
 ラシム但シ綴字ノ法ヲ教フルハ甚タ難シト云
 フ稍常人ニ近キ者ニハ木製ノ時儀ヲ與ヘ教師
 ノ言ニ從ヒ針ヲ旋轉シテ時刻ヲ指サシムル等
 ナリ右ニ擧ケタルハ痴子教法ノ一斑ニシテ其
 外習字、算術等ノ初歩ヲ教ヘ之ヲ解スルモノ無
 キニ非サレトモ教育ノ力モ痴者ヲ變シテ智者
 ト為スコト能ハス故ニ文字、算術等ヲ學ビ得ル
 者ハ甚タ少ナシ然レトモ數百人中或ハ巧ニ談
 話シ或ハ能ク計算スル者無シトセス嘗テ馬マ洩ハ

朱些斯州ノ痴院ニ於テ痴者ヲ試驗スルニ方リ
 談話ノ巧拙ニ依テ痴ノ度ヲ測リタルコトアリ
 其法ハ假リニ常人談話ノ度ヲ十點ト定メ十點
 以上ノ者ハ常人ニ優リ十點以下ノ者ハ常人ニ
 劣レル者トシテ之ヲ試ミタリシニ四百五十二
 人ノ中一人ハ十三點一人ハ十一點ヲ得タリ是
 レ談話ノ常人ヨリ巧ミナル者ナリ其外十點ノ
 者十人、九點八點ヨリ三點二點一點ヲ得タル者
 最モ多ク全ク談話スルコト能ハサル者四人ア
 リタリ今其談話ノ巧拙ヲ平均スレハ五點トナ

ル即チ常人ノ半ニ過ス又痴者ノ物数ヲ計算ス
 ル力ハ常人ニ及ハサルコト遠ク一二三四ノ如
 キ小數ノ外計算スルコト能ハサル者多シ前ニ
 記シタル談話ノ巧拙ヲ試験スルノ法ニ倣ヒ痴
 者四百六十人ヲ集メテ計算ノ力ヲ試ミタリシ
 ニ其中五人ハ全ク數量ヲ算スルコト能ハス故
 ニ之ヲ零點ト為シ百五十七人ハ纔カニ一二三
 四ノ如キ數ヲ算スルノミナレハ一點トシ最モ
 計算ニ長セシ者ハ十三、十五、十八點ヲ得シ者ア
 リ十八點ヲ得シ者ノ如キハ其年齡ヲ問ヘハ歳

月日時マテモ詳カニ答フルヲ得タレトモ痴者
 計算ノ力ヲ平均スレハ常人三分ノ一ニ至ラス
 痴者ハ概スルニ身體強壯ナラサル者多シ故ニ
 日間必ス適宜ノ運動ヲ要ス運動ノ功ハ啻ニ身
 體ヲ健全ナラシムルノミナラス亦精神ノ發達
 ヲ助クルコト多シ蓋シ精神ト身體トハ其關係
 太タ密ナルヲ以テ身體ノ健全ニ赴クニ從ヒ精
 神モ自ラ發達ニ向フヘシ
 馬洩朱些斯列ノ痴院
 ニ一痴婦アリ身體虛弱ニシテ自ラ四肢ヲ動カ
 スコト能ハス其痴モ亦甚シカリシカ運動適宜

ノ度ヲ得テ終ニ行歩ノ自由ヲ得ルニ至リ其痴
 愚モ前日ニ比スレハ大イニ減シタリト云フ○
 痴者運動ノ法ハ大略學校ノ體操ニ同シ但シ危
 險ノ體操ハ身體ヲ損傷スルノ恐レアルヲ以テ
 之ヲ為サシメス又時トシテハ音樂ヲ奏シ痴者
 ヲシテ歌ヲ唱ヘ務メテ快樂ノ情ヲ發セシム若
 シ痴者ヲシテ屢怒ヲ起サシムル時ハ終ニ痴狂
 相分タサルニ至ル快樂ハ則チ然ラス却テ痴者
 ノ精神ヲ發達スルノ一助トナルコトアリ余輩
 邊西威業州ノ痴院ヲ訪ヒシ時三百有余ノ痴者

隊伍ヲ整テ體操ヲ為セリ其舉動略常人ニ異ナ
 ラス然ルニ教場ニ於テ受業ノ形狀ヲ視ルトキ
 ハ一目シテ痴者タルヲ知ルニ足レリ是レ痴者
 ノ遊戯ヲ愛スルヨリ其意ノ向フ所自ラ其術ニ
 長セルモノナリ
 痴者ハ性懶惰ナル者ナレトモ之ヲ勵マシテ其
 為シ得ヘキ手業ヲ教フルハ身體ヲ建康ニシ他
 日親戚ノ助トナラシメントスルニ在リ男子ノ
 業ハ箒ヲ造リ農事ヲ為シ洗濯ヲ為シ室内ヲ掃
 除シ女子ハ盤皿ヲ洗ヒ洗濯ヲ為シ裁縫ヲ學フ

等ナリ務テ學ヒ易キ事ヲ教フレトモ學ヒ得ル
 コト甚タ難ク製作スル物品亦粗惡ナルヲ免レ
 ス然レトモ今日マテノ實驗ニ據ルニ痴者院ヲ
 出テ家ニ歸ルノ後家事ノ助ヲ為ス者少ナカラ
 ス故ニ痴者ニ手業ヲ授クルノ益アルコトヲ知
 ル可シ

痴ノ度ハ輕重アリト雖モ之ヲ分ツテ三等トス
 即チ其甚タシキ者ヲ「イヂヲト」トナシ其次ヲ「フ
 ール」トナシ又其次ヲ「シンプルトン」トナス生レ
 テ十一二歳ニ至リ他人ノ言語ヲ聞キ得レトモ

自ラ一言タモ發スルコト能ハサル者之ヲ「イヂ
 ヲト」ト名ツケ事物ノ名稱ヲ言ヒ得レトモ自ラ
 欲スル所ヲ述フルコト能ハサル者之ヲ「フル
 ト」ト名ツク「シンプルトン」ハ人ノ言語ヲ解シ平常
 ノ談話ヲ為シ得レトモ其作為舉動痴タルヲ免
 レサル者ニシテ之ヲ痴者中ノ最モ善キ者トス
 又痴者ニ腦部機關ノ痴、機關作用ノ痴アリ腦部
 機關ノ痴ハ腦部ノ機關具備セサルモノナリ機
 關作用ノ痴者ハ腦部ノ機關ニ不足ナケレトモ
 其作用常無ク其舉動或ハ常人ノ如クナルコト

アレトモ時トシテハ亦小兒ノ如キテ免レサル
 モノナリ腦部機關ノ痴ハ機關具備セサルヲ以
 テ教フヘカラサルモノトスレトモ機關作用ノ
 痴ハ教育ノ功ニ因テ其智力ヲ發達ス可シ蓋シ
 腦部機關ノ痴ハ譬ヘハ人ノ指無クシテ笛ヲ吹
 クコト能ハサルカコトク機關作用ノ痴ハ五指
 ナ有スレトモ其作用ヲ失シタルカ如シ務メテ
 之ヲ用フレハ終ニハ指ノ用ヲ為シ能ク笛ヲ吹
 クヲ得ヘシ○痴ノ原由ハ甚タ多シト雖モ其父
 母、親戚相婚シタル者、親ノ大酒ナル者、親ノ痴ナ

ル者、親ノ狂顛ナル者、或ハ多病ナル者、母懷妊中
 ノ容體及ヒ母ノ墜胎セントセシ者等ヲ最トス
 但シ出生ノ後病癒ノ為メ痴トナリタル者ハ此
 原由ヲ以テ論スヘカラス又親戚相婚スル者ハ
 必ス痴兒ヲ産スルト定メ難シト雖モ親戚中ニ
 ハ一種ノ性質或ハ父祖傳來ノ疾病アルモノナ
 レハ互ニ相婚姻スルキハ子孫愈其性質疾病ヲ
 受ケ終ニ痴ノ原由トナル者少ナカラス嘗テ痴
 者三百五十九人ノ親ヲ尋子タリシニ親戚相婚
 シタル者十七其子九十五人ノ中四十四人ハ痴

ナリ其甚シキハ一家族ニテ五人ノ子悉ク痴兒
ナルモノアリタリ又大酒ノ其原由ヲ為スコト
多キハ痴者三百人ノ中大酒家ノ子百四十五人
ニ居リシヲ以テ知ル可シ父母狂顛若クハ多病
ナレハ痴兒ヲ産スルコト少ナカラス母懷妊中
ニ大酒ヲ飲ミ或ハ發狂シ或ハ多病ナル時ハ其
子痴ナル者少ナカラス母墜胎セントシテ遂ケ
サリシ時モ往々痴兒ヲ産ス其外父母ノ不良ナ
ルニ因テ其子痴ナル者多シ世ノ父母タル者豈
思ハサルヘケンヤ

改良院

改良院ハ裁判官ノ命ヲ以テ兒輩ノ小刑ヲ犯シ
タル者或ハ品行不正ナル者又ハ懶惰ナル者ヲ
入ル、處ナリ間、父母ノ請願ニ依テ入院ヲ許ス
コトアリ其目的ハ不良ノ兒輩ヲ善心ニ誘導シ
他日害ヲ社會ニ及ホスヲ豫防スルニ在リ入院
ノ兒女ハ概テ五六歳以上十六七歳以下トス其法
專ラ兒輩ニ前非ヲ悔悟セシメント務メテ懲罰
スルヲ主意トセス兒輩前非ヲ悔悟シテ品行端

正ニ復スル時ハ父母ノ許ニ歸ラシム若シ父母
 貧困ニシテ子女家ニ歸ルノ後教育ヲ與フルコ
 ト能ハス再ヒ前日ノ惡行ニ陥ラントスルノ憂
 ヒアレハ改良院ヨリ直ニ之ヲ製作所ニ托シテ
 職業ヲ學ハシム改良院ノ主旨ハ斯ノ如クナル
 ナリテ獄舎ノ如ク身體ヲ束縛スルコト少ナク
 務テ教育ヲ授ケ道德ニ導キ始テ其目的ヲ達ス
 ルヲ得ヘシ米國ニ於テ改良院ノ創立ハ凡五十
 年以前ニシテ初メハ兒輩ヲ處スルニ獄舎ノ法
 ナ折衷シテ之ヲ用ヒシカ積年ノ實驗ニ依テ之

ヲ視ルニ却テ兒輩ノ改良セシ者稀ナリ蓋シ獄
 舎ノ法ハ人ヲ處スルニ仁愛ノ情薄ク為メニ人
 心ヲシテ愈々殘忍ナラシメ暴行終ニ止ムコト無
 キノ弊ヲ免レズ殊ニ兒輩ハ善惡ヲ識別スルノ
 智ニ乏シク又情慾ヲ制スルコト能ハサル者ナ
 レハ父母ノ看護教育兩ラ其宜シキヲ得テ以テ
 其行為道德ニ耻サルニ至ル可シ故ニ之ヲ處ス
 ルニ苛酷ノ法ヲ以テス可ラス近來米國ニ於テ
 創立スル改良院ニハ童子職業學校、女子院等ノ
 名ヲ命スルモノ多シ蓋シ改良等ノ名ヲ下スト

キハ子女其名稱ヲ耻テ社會ニ容レラレサル者ト自棄シ愈、其心ヲシテ放鬆ナラシメ終ニ前非ヲ悔悟スルノ時無キニ至ルヲ以テナリ
現今米國ニ於テ改良院ノ數四十七箇アリ列立最モ多ク市立之ニ次キ教會ノ創立セシ者又之ニ次ク在院ノ子女ハ合シテ凡ソ十萬餘人父母ヲ喪ヒタル孤兒其半ニ過ク蓋シ父母ニ死別シタル子女ハ教育ヲ受クルコト少ナク加之衣食住ノ供給不足ナルヲ以テ終ニ其本心ヲ失ヒ不善ヲ為シテ改良院ニ入ル者多シ憫レマサルハ

ケンヤ○改良院ニ於テ授クル學科ハ概_テ普通教科ニシテ高尚ノ學科ヲ教フルコト稀_{ナリ}手工ハ他日營業ノ途ヲ立シメントスルヲ主トシ改良院ノ地位、農事ニ便ナレハ農ヲ教ヘ製作物ニ適スレハ製作術ヲ授ク
波士敦府ハ米國中最大ノ都會ニ非サレトモ千八百七十四年中六歳ヨリ十七歳マテノ子女小刑ヲ犯ス者二千ノ多キニ至レリ近來兒輩ノ刑法ニ觸ル、コト多キハ獨リ同府ノミナラス其原由一ニ止マラスト雖モ無學ノ不善ヲ招ク

媒トナル者甚タ多シ故ニ教育家ノ説ニ曰ク不
 良ノ子女ヲ處スルノ法ハ世人ノ議論同シカラ
 スト雖モ余輩ハ教育ヲ除キ他ニ策無キヲ信ス
 教育ヲ以テ改良ノ目的ヲ達シタル例ハ實ニ枚
 舉ニ遑アラスト

書籍館

公共書籍館 何人ニテモ代料ヲ拂ハスシテ縦ノ
 覧スルコトヲ得ル書籍館ナリ
 人民教育ヲ助クルノ益多キハ四十年来米國人
 ノ論説スル所ニシテ初メ紐育州馬洩朱些斯州

ニ於テ公共書籍館ヲ設ケシヨリ之ニ倣フテ公
 共書籍館ヲ建テタルモノ殆ント二十州ニ及ビ
 其数次第ニ増加シ書籍館ノ建築並藏書ノ出納
 目錄ノ編成法等別ニ一學科ト為ルニ至レリ是
 ニ於テ総政府教育寮ノ長官米國書籍館報告書
 ヲ編マンコトヲ建言シ一千八百七十年ヨリ著
 手シ七十六年ニ至テ大成セリ之ヲ米國書籍館
 報告書ノ始トス
 現今米國內ノ都府ニハ殆ント公共書籍館ノ設
 ケ有ラサル所無ク山村埜邑ノ貧民ニテモ書籍

ヲ得ルコト難カラス退テ百年前ヲ顧ミレハ人
口甚タ寡ク加之鐵路未タ開ケス郵便未タ整ハ
ス僻陬ノ人民ハ容易ニ書籍ヲ得ルコト能ハス
都府ト雖モ書肆多カラス印刷盛シナラス且ツ
無謝小學ヲ設ケ廣ク人民ヲ教育スルノ論未タ
起ラサリシヲ以テ公共書籍館ヲ置キ無代價ニ
テ縦覽セシムルノ思想モ未タ生セサリキ故ニ
當時ノ書籍館ハ大抵學校若クハ社中ノ私有タ
リ蓋シ人民無謝教育ノ益ヲ熟知シタル後ニ非
サレハ公共書籍館ノ利アルヲ解スルコト能ハ

ス
米國書籍館増加ノ速カナル實ニ驚クニ堪ヘタ
リ一千七百七十六年ニハ公共若クハ半公半私
ノ書籍館二十九所蔵書合セテ四萬五千六百二
十三卷、一千八百年ニハ書籍館四十九所蔵書九
ソハ萬卷ナリシカ方今ニテハ公共書籍館三千
六百八十二所、蔵書一千二百二十七萬六千九百
六十四卷ノ多キニ至レリ其外小學校附屬ノ書
籍百三十六萬五千四百零七卷寺院及ヒ日曜學
ソニデイスク
校ノ書籍許多アリ○百年前ヨリ每二十五年間

ニ増加セシ公共書籍館ノ数ハ一千七百七十五年ヨリ一千八百年マテニ二十所、一千八百年ヨリ一千八百二十五年マテニ百七十九所、一千八百二十五年ヨリ一千八百五十年マテニ五百五十一所、一千八百五十年ヨリ一千八百七十五年マテニ二千二百四十所ナリ其他六百餘所ノ書籍館ハ設置ノ年月ヲ報告セサレトモ十ノ八九ハ一千八百五十年以來ノ新設ニ係ルコト疑ヲ容レス

左ニ揭示セルハ一千八百七十五年ヨリ七十六

年マテニ教育寮へ報告書ヲ送リタル三百卷以上ノ書ヲ藏セル公共書籍館ノ表紀ナリ然レトモ三千六百八十二所ノ書籍館中六百五十三所ハ設置ノ年月ヲ報セス二千百七十二所ハ年々増加スル書籍ノ平均数ヲ報セス二千九百四十所ハ一年間縦覧ノ卷數ヲ報セス一千九百六十二所ハ永世資金ノ有無ヲ報セス二千八百四十二所ハ歳入ノ多寡ヲ報セス二千九百十三所ハ書籍及ヒ雜誌ヲ購求修補スル歳費ヲ報セス三千零三十九所ハ司者ノ給料及ヒ臨時費用ノ額ヲ

報セス加之八所ノ書籍館ハ期ニ後レテ報セル
ヲ以テ左ノ表ニ載セス故ニ遺漏甚タ多シ

書籍全數	一、二、二七六、九六四、卷
毎年増加	報告セル書籍 四、三、四、三三九、卷
毎年縱覽	報告セル書籍 八、八、七、九、八六九、卷
永世資金	報告セル書籍 六、一、〇、五、五八一、弗
歳入	報告セル書籍 一、三、九、八、七五六、弗
書籍購求歳費	報告セル者 五、六、二、四〇七、弗
司者給料臨時費	報告セル者 六、八、二、一六六、弗
但シ雜誌類及ヒ區學校藏書ハ此外ナリ若シ之	

ヲ合スレハ左ノ如シ

公共書籍館 三百卷以上 一、二、二七六、九六四、卷

(前ノ表ニ書籍全數ト記シタルモノナリ)

區學校藏書 一、三、六、五、四〇七、卷

雜誌類 九一、五〇〇〇〇、卷

其外寺院附屬ノ書籍館甚タ多シト雖モ未タ其
報告ヲ得ス

○ゼ、ピ、ク、イ、ン、シ、一、氏、公、共、書、籍、館、建、設、ノ、事、ヲ、論
シ、テ、曰、ク、或、ル、學、者、先、生、ノ、説、ニ、政、府、ノ、職、務、ハ、曲
直、ヲ、正、シ、是、非、ヲ、明、カ、ニ、ス、ル、ノ、一、事、ノ、ミ、ナ、リ、故

ニ政府ハ巡査ヲ置キ獄舎ヲ設クルノミニシテ
 足レリ社會ヲ開進スルノ事業ハ人民ノ責ニ任
 スルアリ何ソ政府ノ干涉スルヲ須ヒンヤト甚
 タシキハ公學ヲ建ルモ政府ノ權限外ト爲シ若
 シ政府ニテ公學ニ干涉スルヲ理アリトスレハ
 國教ヲ定メ人民ニ租稅ヲ賦シテ之ヲ維持スル
 モ可ナリト謂フニ至レリ固ヨリ大家ノ說ナル
 ナリ以テ後進ノ妄ニ非議スヘキ所ニ非スト雖モ
 予竊ニ思ヘラクスル議論ヲ主張スル學者先生
 (ヘルベルト、スペンセル氏ノ如キ人)ト共ニ晚餐

ノ後新英府邑ノ街上ヲ逍遙シ政府ノ干涉ニ因
 テ果シテ何等ノ弊害ヲ生シタルヤトノ問題ニ
 及ハ、極メテ一大快事ナル可シ今試ニ首ヲ往
 時ニ回ラセハ諸所ニ多クノ酒店アリキ(方今ハ
 賣酒ヲ禁ス)父老ノ言ヲ聞クニ政府ノ賣酒ヲ禁
 セサリシ以前ハ人民隨意ニ酒店ヲ開キ夜ニ入
 レハ燈ヲ點シテ客ヲ招キ人民相會シテ樂ヲ共
 ニスルノ處ト爲シ士君子ト雖モ別ニ長夜ヲ消
 スルノ處無キヲ以テ止ムヲ得ス酒店ニ入り火
 酒ヲ鯨飲シタル醉人ト笑語戲謔スル者寡ナカ

ラサリキ然ルニ方今ハ政府令ヲ出シ店ヲ開テ
 酒ヲ公賣スルヲ禁シ噲ニ酒店翁ノ自由ヲ妨ケ
 人民ノ起立シタル事業ヲ破リタルノミナラス
 其職掌ヲ踰テ廣大ナル書籍館ヲ建設シ公費ヲ
 以テ燈火ヲ備ヘ人民ノ縦覽ニ供スルヲ以テ街
 上一ノ酒店翁ヲ見ス一ノ醉人ニ逢ス唯工_{シヨクニ}人其
 妻子ヲ携ヘ書籍館ニ行テ書ヲ閱シ父子夫婦團
 樂シテ共ニ樂ムヲ見ルノミ之ヲ昔時ノ形況ニ
 比スレハ學者先生ハ孰レヲ好シトスルヤ又書
 籍館ニ備フヘキ書籍ヲ論シテ曰ク公共書籍館

ニ備フヘキ書籍ノ種類ヲ一定スルハ甚タ難シ
 富裕ノ都府ニ於テハ世間ニ刊行スル書籍ヲハ
 一々蒐集レテ漏サス假令風俗ヲ害スル書籍タ
 リトモ之ヲ藏シテ當時ノ人情世態ヲ後世ノ史
 家ニ傳フルハコレ亦一理無シトセス然レトモ
 人民ノ租稅ヲ以テ維持スル書籍館ニシテ廣ク
 人民ノ利便ヲ謀ラス妄ニ無益ノ書籍ヲ購求ス
 ルノ理アラシヤ市邑ノ書籍館ハ居民ノ為メニ
 設クルモノナルヲ以テ務テ居民ノ志好ニ適セ
 ル書類ヲ備ヘ徒ニ高尚ノ奇書ヲ藏スルハ宜シ

カラスト雖モ間多クノ稗史小説人心ヲ壞ナ
ノ書類ヲ備ヘ以テ人民ノ娛樂ニ供スルモノア
リ豈人民ノ租税ヲ以テ徒ニ其娛樂ニ供シ利害
得失ヲ措テ問ハサルノ理アラシヤ畢竟市邑ノ
書籍館ハ小學校ヲ補助スルノ具ニシテ廣ク人
民ノ志好ヲ高尚ナラシムルヲ務トスヘシ

博物館

博物館トハ文學技藝ニ關スル天造及ヒ人造ノ
物品ヲ蒐集陳列シテ觀覽ニ供スル者ノ總名ナ

リ故ニ細カニ之ヲ別テハ技藝博物館、美術博物
館、史學博物館、醫學博物館、教育博物館、農業博物
館、天産博物館、禽獸園、草木園等一々枚舉スルニ
遑アラス米國ノ如キハ開國以來日猶淺ク羅馬
ノ「ヴァチカン」宮博物館、倫敦ノ英國博物館ノ如
キ廣大ナルモノ無シト雖モ世人ノ知識ヲ進メ
ン為メ博物館ヲ設ル日一日ヨリ多ク都府ニハ
大抵博物館ノ設ケアラサル無ク各所ノ大學校
ニハ動物、植物、礦物、機械ノ雛形、理學、化學ノ器械
等ヲ列シテ生徒ノ修學ニ便スル室アリ別ニ博

物館ノ名ヲ下サ、レトモ其實八一ノ小博物館
ナリ

華盛頓府ニハ左ノ博物館アリ

「コルコラン」（技術館）ハ油繪、彫刻物、銅器、陶器等ヲ
藏ス一千八百六十九年（コルコラン）氏米國ノ美
術ヲ盛ニセン為メ始テ資金ヲ出セシヨリ漸
ク金ヲ投シテ之ヲ助成スル者多ク所藏ノ物品
年々増加スト云フ初メコルコラン氏ノ寄附シ
タル物品其價九十萬弗、家屋ヲ建築シ土地ヲ買
ハタル費二十五萬弗、現ニ寄附金九十萬弗アリ

其利子毎年六萬二千弗ヲ以テ技藝館ヲ支持ス
但シ火曜日木曜日土曜日ニハ衆人ニ縦覽ヲ許
ルシ他ノ日ニハ（日曜日ヲ除ク）一人ヨリ二十五
錢ヲ取ルヲ規則トス

陸軍醫學博物館ハ軍務局ノ附属ニシテ南北戰
争ニ繼テ設置スル所ナリ其部類ハ分テ五トス
第一類外科ノ部ハ刀槍彈丸ノ身體ヲ傷ケタル
形狀六千五百種ヲ列シ（第二類）内科ノ部ハ熱病
痢病等ノ如キ内部ノ病態一千五百種ヲ示シ（第
三類）顯微鏡ノ部ハ病ニ罹リタル組織六千五百

類ヲ陳子(第四類)解剖ノ部ニハ骨骼、頭骨、禽獸ノ
骨骼等ヲ備ヘ(第五類)雜部ハ陣中病院ノ雛形、外
科器、人造手足等ナリ

賣權局雛形室ハ賣權局ノ上層ニ在リ新發明機
器ノ雛形凡ソ十五萬五千ヲ陳列シテ衆人ノ縱
覽ニ供ス故ニ博物館ノ名無シト雖モ其實ハ一
ノ博物館ナリ茲ニハ機器ノ雛形ノ外ニ珍奇ノ

古物ヲ藏ス即チ米國獨立檄文ノ原書、ワシント
ン氏ノ將軍ニ任セラレタル委任狀同氏ノ家具

將軍ジャクソン氏ノ佩劍、制服等ノ如キモノナ

リ
スミツニヤン、イニスチチユーレヨンニハ動植
礦物類ノ藏品最モ多シ初メ英人スミツン氏資
ヲ捐テ基ヲ開キ毎年國會ヨリ若干ノ金ヲ出シ
テ之ヲ支持ス此博物館ハ常ニ内外諸國ノ博物
館ト消息ヲ通シ互ニ有無相易ヘ少シク費ヤシ
テ多ク得ルノ法ニ依リ漸ク以テ物品ヲ増スコ
トヲ主トセリ

草木園ハ議事堂ノ西數百步ノ地ニ在リ草木四
千種ヲ植ユ熱帶地方ノ植物米國ノ氣候ニ堪ヘ

サルモノハ之ヲ玻璃室内ニ蓄ヘ蒸氣ヲ通シテ
 適宜ノ溫度ヲ保タシム此園ハ一千八百五十八
 年コモドールウキルクス氏ノ寄附ニ起リ其後
 次第ニ草木ヲ購求シ或ハ外國ノ草木園ト有無
 相易ヘ或ハ外國在留ノ公使ヨリ送致シ年々其
 数ヲ増スト云フ
 農業局博物館ハ農業局中ニ在リ農業ノ産物果
 物及ヒ蔬菜ノ模造、絹、綿、織物、農業ニ利益若クハ
 損害アル鳥獸魚蟲ノ類ヲ蓄フ
 右ハ現ニ華盛頓府ニ在ル所ノ博物館ナリ其外

陸軍卿ハ陸軍博物館ヲ設ケシコトヲ首唱シ教
 育寮長ハ教育博物館ヲ開カント建議シ百年期
 博覽會ノ終リタル後ハ博覽會場ニ建築シタル
 米國政府館ヲ華盛頓ニ移シ諸博物館ヲ合シテ
 國立博物館ト総稱シ其内ニテ農業博物館、教育
 博物館等ト區分スルノ議アルヲ聞ケリ但シ本
 年大博覽會ニ因テ諸博物館ノ藏品ハ俄カニ増
 加セルコト疑ヒ無シ
 ○新約克府メトロポリタン^{ニューヨーク}技術博物館ハ所藏
 ノ油繪ノ外ニ陶器油繪古物等ヲ他ヨリ借リ集

テ陳列シ毎月曜日ニハ衆人ニ縦覽ヲ許ルシ他
 ノ日ニハ一人ヨリ二十五錢ヲ取ル故二月曜日
 ニ來リ觀ル者殊ニ多シ此博物館ニテハ陳列品
 ノ圖解ヲ小冊子ニ綴リ觀者ノ便ニ供スルヲ以
 テ其裨益少ナカラス

○禽獸園ハ費拉特費ニ在ルモノヲ米國第一ト

ス創置以來纔カニ数年ニ過キサレトモ熱帶ノ
 駱駝寒帶ノ白熊等殆ント羅致シテ遺ス所無シ
 但シ私立ニ係ルヲ以テ觀者ヨリ二十五錢ヲ取
 ル

○是マテハ書籍館ヲ以テ徒ニ書籍ヲ藏シテ散
 逸セシメサルノ處ト為シ觀者ノ便ヲ謀ルコト
 少ナカリシカ書籍館ノ用ハ其書籍ヲ廣ク世人
 ノ觀覽ニ供シテ知識ヲ博ムルニ在ルヲ以テ近
 來ハ觀者ノ便ヲ謀ルヲ書籍館ノ要務トスルニ
 至レリ博物館モ亦然リ假令何程ノ珍奇ヲ藏ス
 ルトモ世人ノ觀覽ニ便利ナラシメ教育ノ助ヲ
 為スニ非サレハ無用ノ長物タルニ過キス故ニ
 メトロポリタン^{メトロポリタン}技藝博物館ノ如キハ逐次藏品
 ノ圖解ヲ刊行シ其他務テ觀者ノ益ヲ謀リ徒ニ

奇物ヲ陳列シテ空シク耳目ヲ悦ハシムルノ具
 トナラサランコトヲ求メタリ
 博物館ノ物品ヲ一々購求スル時ハ費用甚タ多
 キヲ以テ或ハ他ノ藏品ヲ借りテ陳列シ或ハ他
 ノ博物館ト謀リ互ニ有無ヲ交換スルヲ好シト
 ス

技藝師範學校 馬汝朱些斯州波士敦府ニ在リ
校ヲ云フ

技藝師範學校ハ馬汝朱些斯州波士敦府ニ在リ
 畫學ノ教師ヲ養成スル所ナリ蓋シ畫學ハ百般

ノ技藝ヲ起スノ根本ナルヲ以テ之ヲ技藝師範
 學校ト名ク近來米國ニテハ畫學ノ小學校ニ缺
 クヘカラサルノ論盛ニ行ハレ一千八百七十年
 本州ノ議院ハ新法ヲ定メ小學校ニハ必ス圖画
 ノ一科ヲ設ケ且ツ人口一萬人以上ノ府邑ニテ
 ハ必ス成人ニ謝金ヲ取ラスシテ圖画ヲ教フル
 場所ヲ開クヘキコトヲ令シ圖画ノ博士ウオー
 トル、スミス氏ヲ英國ヨリ聘シテ本州ノ技藝監
 督ニ命シ波士敦府ノ技藝監督ヲ兼テシメタリ
 氏ハ力ヲ盡シテ小學ニ圖画ノ科ヲ開キ成人ノ

為メ府邑ニ無謝ノ画學所ヲ設ケ又圖画教育ヲ
 論シタル繪入ノ書ヲ著述セリ但シ成人ハ日間
 職業ヲ勤メ圖画ヲ學フノ暇無キヲ以テ夜中之
 ヲ教授シ機械師、木板師、大工、船大工等來リ學フ
 者甚タ多シ斯ク俄カニ圖画ヲ盛ンニセシヨリ
 隨テ画學ノ教師ニ乏シカリシヲ以テ一千八百
 七十三年十一月波士敦府ニ一ノ技藝師範學校
 ヲ開キスミス氏ヲ以テ校長トセリ是レ米國ニ
 画學師範學校ヲ設クルノ濫觴ナリ蓋シ米國教
 育ノ改進ハ本州ヨリ起ルモノ十ノ七八ニ居ル

ト云フ開校以來入學ヲ乞フ者甚タ多シト雖モ
 校舍狹隘ニシテ纔カニ百餘人ノ生徒ヲ容ル然
 レトモ生徒ノ進步太タ速カニレテ數年ノ後ハ
 州中ノ小學校普ク画學ノ良教師ヲ得ルニ至
 ランスミス氏ノ說ニハ圖画ヲ普及セシムルニ
 ハ通常ノ師範學校ニモ画學ノ級ヲ置キ他ノ學
 科ト合セテ學ハシムルヲ好シトセリ
 我國ノ圖画ハ支那ノ風ニ倣ヒ徒ニ耳目ヲ悅ハ
 シムル玩具トナシ近來洋風稍開ケタリト雖モ
 多クハ油繪等ノ如キ實用ニ遠キモノヲ學ヒ此

書ニ所謂圖画(ツロイイング)ノ必用ナルヲ知ル者少ナシ依テ左ニ米國^米國人ノ論シタル圖画ノ功用及ヒ之ヲ小學ノ教科ト為スヘキ所以ヲ記シテ看者ノ参考ニ供ス

米國教育寮一千八百七十三年ノ報告ニ曰ク公學ニ於テ圖画ヲ教フレハ他日生徒ノ職業ニ就ク時何等ノ効用ヲ為スヤ工夫、財主、及ヒ教育ニ注意スル諸士ノ説ヲ聽クニ皆曰ク圖画ノ學一歩ヲ進ムレハ製作ノ巧亦一歩ヲ進メ工夫、纒力ニ圖画ノ初歩ヲ學ヒ得レハ傭銀ヲ得ルノ量百

分ノ二十五ヲ増加スト方今ノ形勢ヲ察スルニ萬國ノ人民物産ヲ製作スルノ爭競ハ日一日ヨリ甚タシク貿易製造ノ戰ハ彈丸硝藥ノ鬪ヨリモ烈シ故ニ各國其開明富強他國ノ後ニ居ルヲ欲スルニ非サレハ務テ工業ノ進歩ヲ謀ラサル可カラス米國ノ如キハ諸般ノ障礙アリテ父母其子ニ他日獨立生計ヲ營ムノ職業ヲ授クルコト難シ故ニ公學校ニ於テハ子女職業ニ就クノ基礎ヲ教ヘサル可カラス職業ヲ教フル專門學校モ必要ノ時到レハ諸所ニ設置スルコト疑テ

容レスト雖モ普子ク人民ヲシテ社會有用ノ人
 タラシメ人民タルノ職務ヲ行フヲ得セシムル
 ハ小學ノ責ナリ讀書、習字、算術ハ他ノ知識ヲ得
 ルノ階梯ニシテ固ヨリ缺ク可カラスト雖モ未
 タ此目的ヲ達スルニ足ラス蒸氣機關ノ發明ヨ
 リ製作ノ費用ヲ減シ物品ノ運輸ヲ便ニシ粗惡
 ノ製造物ハ殆ト其價ヲ失フニ至レリ故ニ今ノ
 世ニ當テハ工業ノ本源タル圖画ヲ盛ニシ目
 ト手トテ教育シテ目ハ美惡精粗ヲ鑒別シ手ハ
 自在ニ運轉スルノ用ヲ為サシメサル可カラス

○佛國政府ノ委員、圖画ノ緊急ナルヲ論シテ曰
 ク圖画ハ^{ズシテ}技藝教育中最モ重要ナル科目ナリ佛
 國製造ノ精巧ナルモ廣ク圖画ヲ教フルニ因ル
 ト蓋シ圖画ノ技藝ニ於ケルハ猶文字ノ詞章ニ
 於ケルカコトク先ツ文字ヲ知ラサレハ詞章ヲ
 學フ能ハス圖画ヲ善クセサレハ技藝ニ長スル
 能ハス故ニ小學校ノ兒童ヲシテ他日職業ニ就
 キ社會有用ノ人タラシメント欲スレハ圖画ヲ
 教ヘサル可カラス或ハ技藝ヲ以テ高尚ノ學科
 ニシテ日常ノ用ヲ為サスト爲シ技藝館ニ陳列

シタル圖画、彫刻物等ノミチテ技藝ナリトスルハ
 大イナル誤謬ナリ何人ニテモ全國學校ノ兒童
 ナシテ悉ク圖画ノ初歩ヲ學ヒ得セシムル者ハ
 全國ノ製造ヲ盛ンニシ人民ノ技藝ヲ進歩セシ
 ムルノ功空シク百千ノ技藝博物館ヲ建ルニ勝
 ルコト遠シ夫レ書籍館ハ文字ヲ知ル者ノ爲メ
 ニ設ケ技藝館ハ目能ク視、手能ク動ク者ノ爲メ
 ニ建ツヘキハ勿論ナレトモ我國ニテハ其順序
 ナ誤リ圖画ヲ教ヘスシテ先ツ技藝館ヲ開ク恰
 モ文字ヲ教ヘスシテ先ツ書籍館ヲ設ケタルニ

異ナラス然レトモ其害ハ猶今日ニ除クヲ得可
 シ宜シク圖画ヲ普通ノ教科ト爲シ技藝博物館
 ナシテ人民ニ必要ナル設ト爲ラシムヘシ
 ○一千八百七十二年八月馬洩朱些斯列波士敦
 府ニ於テ米國教育社中、集會ヲ爲セシ時本州ノ
 技藝監督兼技藝師範學校長ウオートル、スミス
 氏小學ニ於テ圖画ヲ教授スル法方ヲ演述セリ
 議論頗ル長シト雖モ今其要ヲ摘テ左ニ譯出ス
 曰ク
 米國旗章ノ下ニ生レタル人民ハ自在ニ教育ヲ

受クルノ便ヲ得ルコト空氣ヲ呼吸スルヨリモ
 容易ナリ米國人民ハ子女其父母ノ怠慢貧困ノ
 爲メニ教育ヲ受クルコト能ハサルノ弊害ヲ除
 キ將來國民ノ貞ニ列スル者ヲシテ盡ク其國ニ
 對シテ務ムヘキ職掌ヲ知ラシムルヲ以テ社會
 ノ責任トセリ實ニ今古未曾有ノ盛事ト謂フ可
 シ余ハ素ト英國ニ生レ英國ニ於テ教育ヲ受ケ
 タルヲ以テ英國ノ教育法ヲ慕フノ念時々胸中
 ニ生スレトモ仰テ米國學校ノ盛大ナルヲ視俯
 シテ英國及ヒ他ノ歐洲諸國ニ不學子女ノ多キ

ヲ思フトキハ故國ヲ慕フノ念忽チ消散シテ襟
 懷爲メニ爽然タルヲ覺ユ迨來我教育法ヲ駁ス
 ル者ノ說ニ曰ク米國ニテハ智力ノ教育其度ニ
 過キ下等小學ノ如キハ軟弱ノ幼兒ヲシテ智力
 ヲ勞セシムルノ害殊ニ甚タシク將來發達ノ妨
 ヲ爲ス少ナカラスト其論頗ル世ニ行ハレ教育
 法ヲ改ムル毎ニ智力ヲ勞スル科目ヲ減シ四肢
 五官ノ作用ヲ發達スルヲ重シスルニ至レリ方
 今示物教授法ノ世間ニ廣マリ諸學校ニ於テ生
 徒ニ盡ク音樂及ヒ圖画ノ初歩ヲ教フルハ即チ

其證ナリ又幼稚園ハ兒童ヲ遇スルニ温順柔和
 ヲ主トシ五官ノ作用ヲ教ヘテ智力ヲ勞セシメ
 ス教授ノ法宜シキヲ得タリト謂フ可シ兒童ハ
 智力ノ發達甚々晩シト雖モ五官ノ鋭敏ナルコ
 トハ成人ニ讓ラス然ルニ兒童ヲ教フルニ方テ
 先ツ其鋭敏ナル五官ニ藉ラスシテ未タ發達セ
 サル智力ヲ勞スルハ童ニ効無キノモナラス又
 兒童ヲ遇スル太タ苛ナリト言ハサルヲ得ス試
 ニ着ヨ學校ノ教育ヲ受ケスシテ恣マニ田野
 山林ニ奔走シ或ハ禽獸ヲ伴トシ或ハ細工場ニ

遊戯スルヲ事トシタル者終ニ世間ニ有用ノ人
 トナリ名ヲ天下ニ知ラル、コト少ナカラス是
 ニ由テ考フレハ獨リ五官ノ向フ所ニ任セ之ヲ
 教導セサレトモ間學校ノ教育ニ勝ルコトアリ
 現ニ小學ニ於テ兒童ヲ教フルノ法ハ腦力ヲ勞
 スル始終其度ヲ踰エ兒童學業ノ人ニ後レシユ
 トヲ恐レテ心常ニ煩悶シ終ニハ學校ヲ厭ヒ受
 業ヲ嫌フニ至ル天性遲鈍ニシテ其發達他ノ兒
 童ヨリ晚キ者ハ自カラ信スルノ念ヲ失ヒ伶俐
 ナル兒童ハ過度ニ腦力ヲ勞シテ體力、腦力ト共

ニ發達セス終ニハ腦力亦充分ニ發達スルヲ得
 サルノ害アリ之ヲ救フノ法ハ五官ヲ用フル課
 業ヲ加ヘテ腦力ヲ勞スル課業ヲ減シ時々耳目
 聲手ノミヲ使フテ智力、記憶力等ヲ用ヒサル業
 ヲ授ク可シ故ニ歌ヲ唱ヘシムルモ可ナリ奇事
 珍説ヲ語リテ兒輩ヲ慰ムルモ好シ物形ヲ画カ
 シムルモ亦此目的ヲ達スルノ一ナリ但シ圖画
 ヲ教フルハ精神ヲ勞セスレテ目ト指トヲ練磨
 スルヲ主意トシ徒ニ消日ノ娛樂ト為ス可カラ
 ス音樂、圖画、博物學、示物教授等ハ教育ノ度ニ過

クルヲ制シ且ツ兒童ヲシテ悦シテ其課業ヲ學
 ビ厭倦ノ念ヲ生セサシムルノ利益アリ圖画
 ノ利益ハ豈童之ニ止マランヤ假令他ニ利益ナ
 シトスルモ右ノ一利アレハ之ヲ小學ノ教科ニ
 加フルトモ何ノ不可アラシヤ近頃世間ニ職業
 學校ノ設置ヲ必要ナリトスルノ論起レリ蓋シ
 兒童、學校ヲ辞シテ職業ニ就クニ先チ豫メ職業
 ノ一端ヲ教ヘント欲スルモノナリ實ニ我國ノ
 如キハ學校ノ區域ヲ廣クシ下ハ幼稚園ヨリ上
 ハ技術學校ニ至ル諸教科ヲ尋常ノ學校教科ニ

加へ別ニ幼稚園、技術學校等ノ名稱無キニ至ラ
 ンテ要ス然レトモ坐シテ教育法ノ改正ヲ待タ
 ス先ツ職業ニ關スル學藝ノ初歩ヲ學校ノ教科
 ニ加フ可シ今余カ論セント欲スル所ハ圖画ノ
 一科是ナリ○圖画ノ學ハ他國ニ於テ既ニ之ヲ
 試ミ教授ノ法モ略具ハルヲ以テ今日之ヲ米國
 ニ開クハ較容易ナリ然レトモ他國ニ於テ用ヒ
 タル教授法ノ可否ヲ詳カニレ之ヲ取捨シテ務
 テ簡易ナラシム可シ夫レ圖画ヲ能クスルニハ
 識別、風致、手巧ノ三者ヲ練ルヲ要ス但シ手ヲ練

ルハ常ニ心ヲ練ルヨリモ早シ余カ教フル生徒
 間、余ニ告テ曰ク吾ハ之ヲ画ク方法ヲ知レトモ
 之ヲ画ク能ハスト以テ罪ヲ手ニ歸セントス是
 レ大イニ事實ニ違ヘリ然ルトキハ余之ニ答テ
 言ハシ汝ノ画キタル線ハ實地ノ用ヲ為スニ足
 レリ唯其位置ヲ顛倒セシハ何故ソ者ヨ此瓶子
 ハ上廣クシテ下狹シ然ルニ汝ノ画ハ上ヲ狹ク
 シテ下ヲ廣クセリト生徒此詰問ニ答テ言フ可
 シ吾ハ之ヲ画キシ時上廣クシテ下狹キヲ識ラ
 サリシト是レ手ノ罪ニ非スシテ目ノ物形ヲ識

別スルコト能ハサルニ因ル蓋シ目ハ明ナリト
雖モ之ヲ練ラサレハ善ク視ルコト能ハス○廣
ク小學校ニ圖画ノ科ヲ設ケント欲スレハ小學
教師ヲシテ盡ク圖画ヲ學ハシメサル可カラス
圖画専門ノ教師ハ甚タ乏シク且圖画ノ初歩ヲ
教フルハ却テ尋常ノ小學教師ニ及ハス余ノ所
見ニ從ヘハ小學校ニ専門科ノ教師ヲ置クハ甚
タ宜シカラス其故ハ生徒等圖画ハ専門教師ノ
外他ノ教師ノ能クセサル科目ニシテ兒童ノ容
易ニ學ヒ得ヘカラサルモノナリト空想シ第一

ハ圖画ヲ學フヲ難シトシ第二ハ教師ヲ蔑視ス
ルノ害アリ云々其他初等小學、上等小學、中學、師
範學校等ニ於テ圖画ヲ教授スル方法ヲ論セル
頗ル詳カナリ

教育會議及ヒ教員練習所

米國ニ於テハ教育ノ進歩ヲ助ケンカ為メ學監、
教員其他意ヲ教育ニ用フル人相共ニ會議スル
コト多シ而シテ其會議ニ數種アリ全國教育家
ノ會議ヲ教育國會ト名ケ一列教育家ノ會議ヲ

モノ少ナカラス其中最モ著名ナリシ論題ハ英國リバプール府ジョンス氏ノ發議セシ英語綴字法改正ノ議ナリ

教育國會

此會議ハ十五年前ニ始マリ毎年一度之ヲ開ク但シ會合ノ地ハ年々同シカラス本年ハ瑪理蘭列ボルチモール府ニ於テ會合セリ現今ニ至テハ米國中有名ノ教育家ハ概其社負タルヲ以テ此會議ノ教育ニ裨益アル少ナカラス左ニ本會ノ社則ヲ記セン

教育國會社則

第一條 社名

本社ヲ教育國會ト稱スヘシ

第二條 分科ノ事

本社ニ於テ討論講窮スヘキ科目ハ分テ四トス曰ク學校監督法曰ク師範學校曰ク初等學校曰ク上等學校是ナリ此四科ノ外社則ニ照ラシ別ニ他科ヲ設クルモ妨無シ

第三條 社負ノ事

第一項 凡ソ教育ニ關係セル人ハ入社金ト

シテ二弗ヲ出シ此社則ニ調印スレハ社員タルヲ得ヘシ夫ヨリ後ハ年々一弗ヲ出シ永ク社員タル可シ若シ之ヲ出サ、ル時ハ社員タルノ權ヲ失フモノトス

第二項 各科ニ於テ更ニ其科員タルヲ許スノ規則ヲ定ムルコトヲ得レトモ本社ノ社員ニ非ル者ヲ以テ其科員ト為ス可カラス

第三項 一時ニ十弗ヲ拂ヘハ生涯本會ノ社員タルヲ得可シ

第四條 職員ノ事

第一項 本會ノ職員ハ會長一名副會長十二名書記一名司計一名各科ノ事務ヲ擔當スル職員等ナリ又本會ノ社員トナリタル列部教育家ノ中ヨリ各一名ヲ選テ參事員トス
第二項 會長、副會長、書記、司計、參事員及ヒ各科ノ科長ヲ總稱シテ幹事局トス而シテ幹事局ハ其局員中ヨリ委員ヲ命スルノ權ヲ有ス
第三項 本會ノ職員ハ年會（毎年一次ノ會議ヲ云フ）ノ二日ニ投票ノ多數ニ依テ選舉シ次ノ年會ノ終リニ到リ嗣任者ノ定マルマテ其職務ヲ掌

ルモノトス

第四項 各科ハ科長、副科長、及ヒ書記各一名ヲ置キ其事務ヲ司ラシム其他ノ職員ハ各科事務ノ多少ニ依テ便宜ニ任ス

第五項 會長ハ都テ本會及ヒ幹事局員會議ノ時其議長タル可シ若シ會長臨會セサルハ第一ノ副會長ヲ以テ之ニ充ツ萬一副會長一人モ臨會セサル時ハ衆議ヲ以テ臨時議長ヲ選ム可シ

第六項 書記ハ本會及ヒ幹事局會議ノ記録

ヲ作り幹事局ノ命ヲ受テ文書ノ往復ヲ為シ總テ會議ノ時ニハ其記録ヲ會場ニ備ヘ置ク可シ

各科ノ書記ハ其常職ノ外ニ科員ノ姓名簿ヲ司ル可シ

第七項 司計ハ本會金銀ノ出納ヲ司ルト雖モ會計委員ノ許諾ヲ得サレハ之ヲ費消スルコト能ハス又金銀出納簿ヲ作り會議ニ先キタチテ之ヲ幹事局ニ出シ別ニ其概略ヲ記シテ全社員ニ示ス可シ

第八項 幹事局ハ其局員ニ缺位アル時新員ヲ命シテ其缺ヲ補ヒ、本會ノ得失ヲ謀リ、會合ノ豫備ヲ為シ、本會ヲ以テ貴重ナル有用ノ會議ト為サシコトヲ務メ社員二十名以上連署シテ別ニ新科ヲ置カンコトヲ請ヘハ之ヲ許シテ舊科ト並立セシムル等ノ權アリ但シ新科ヲ置ク時ハ其名稱ヲ社則第二條ニ加載シ又新科設置ノ為メ社則中相抵觸スル箇條アラハ之ヲ改正ス可シ

第五條 會合ノ事

第一項 毎年會合ノ土地月日ハ幹事局ニテ定ム可シ

第二項 五名ノ幹事臨時會議ヲ開カンコトヲ請ヘハ會長之ヲ許ルスコトアル可シ

第三項 各科ハ其規則ニ背カサル土地時日ヲ定メ臨時會議ヲ開クコトヲ得可シ

第四項 幹事局員ノ會議ハ本會ノ會議ニ先ツコト九ソ二時間以上タル可シ

第五項 臨時會議ノ土地月日ハ幹事局若クハ會長之ヲ定ム可シ

第六項 新任ノ幹事局ハ選舉セラレタルノ日ニ局務ヲ整頓シ第一回ノ會合ニ於テ本會議事誌刊行ノ委員ヲ定ム可シ但シ各科ヨリ一名ツ、ヲ舉ケ之ニ前會ノ書記ヲ加ヘテ委員ト為ス可シ

第六條 附則ノ事

本會ノ社則ニ抵觸セサル附則ハ社員三分二ノ同意ヲ以テ之ヲ採用スルコトヲ得ヘシ

第七條 社則改正ノ事

會議ノ時臨席ノ社員一同若クハ三分ノ二同

意スレハ社則ヲ改正スルヲ得ヘシ但シ前會ノ時豫シメ書面ヲ以テ改正ノ條件ヲ陳述シ置ク可シ

右ノ社則ニ揭示セルカ如ク本會ノ科目ハ學校監督法、師範學校、初等學校、上等學校ノ四科ニ分チ社員各其長スル所ノ科ニ入り其科ニ關シタル事ヲ演說討論ス但シ此四科ニ關セサル問題ハ本會ノ會議ニ附シテ討論ス故ニ午前ニ本會ヲ開キ午後ニ各科會ヲ催シ社員ヲシテ本會及ヒ各科會ニ臨席スルヲ得セシム此兩會ニ於テ

演說シタル條件固ヨリ多シト雖モ左ニ舉クルモノハ近年有名ナル教育家ノ演說シタル問題ノ一二ナリ

本社ノ會議ニ於テ演說シタル條件

國立大學校ヲ設クルノ要○男女共學論○總政府教育ニ関スルノ論

學校監督法ノ科

學校建築法○學校監督法○強促就學ノ得失

師範學校ノ科

師範學校生徒ニ博物學ヲ教フル論○師範學校

生徒學科論○師範學校ノ職務

初等學校ノ科

米國無謝學校ノ目的○十歳以下ノ子女課業時間ノ長短○公立初學校ニ幼稚園ヲ置クノ法方○公學校ニ於テ技藝ヲ教フルノ利益

上等學校ノ科

學士稱號ノ事○千八百年紀教育ノ景況

右ノ外有名ナル教育家ノ演說シタル議論甚タ多シ毎年會議ノ終リタル後ニ發議者ノ論說ト他頁ノ討論トテ合セテ議事誌刊行委員ニ附シ

書冊ト為シテ社負ニ送致シ又之ヲ販賣ス之カ
為メ教育上ニ利益ヲ與フル實ニ少ナカラスト
云フ

教員別會

此會議ハ州内ノ教育家相會シテ教育ニ關シタ
ル問題ヲ演述討論スルモノニシテ各州此設ケ
無キモノ少シ其教育國會ニ異ナル所ハ唯他州
ノ人ヲ交ヘサルノミナリ會議ハ概テ一年一次
ニシテ會合ノ地ハ年々同シカラス

教員練習所

米世幹州學校法教員練習所ノ部第一節ニ曰ク
公學ノ教師五十人以上連署スルカ或ハ人口一
萬二千人以下ノ郡ニ於テ公學ノ教師二十五人
以上連署シ教員練習所ヲ開キテ五日以上集會
セントスルコトヲ保證スレハ州學監督ハ之ヲ
開クヘキ土地月日ヲ定メ其準備ヲ為シ報知ヲ
出ス可シ
第二節ニ曰ク教員練習所ノ屋賃燈火演說者ノ
報酬及ヒ諸般ノ費用トシテ五日以上會合スル
教員練習所ヘハ本州學資金ノ中ヨリ百圓以下

ヲ給ス可シ
 第三節ニ曰ク列學監督事務執掌ニシテ自カラ
 教員練習所ノ事務ヲ監督スルコト能ハサル時
 ハ他人ヲ擧ケテ代理セシムルモ妨無シ但シ教
 員練習所ニ關シタル費用トシテ本列會計官ヨ
 リ一年千八百弗以上ヲ受取ル可カラス
 ○教員練習所ニ關シタル諸列ノ學校法ハ固ヨ
 リ一樣ナラスト雖モ大抵米世幹列ノ學校法ト
 大同小異ニシテ一定ノ學資金若クハ別ニ列ノ
 金庫ヨリ費用ヲ出ス者多シ一ノ練習所ニ給ス

ル金額ハ百弗以上ヨリ二百弗以下ヲ通例トス
 又列學監督練習所ノ會頭タルモノアリ或ハ郡
 學監督ヲ以テ此任ニ充ツルモノアリ○諸列ニ
 於テ斯ク教員練習所ヲ勸奨スル所以ハ教師ヲ
 シテ授業法ニ熟達セシメントスルニ在リ夫レ
 教師タル者ハ数十名ノ生徒ヲ托セラレ授業ノ
 得失ニ依テ生徒後來ノ利害ニ關係スルコト少
 ナカラス故ニ假令萬卷ノ書ヲ讀メトモ授業法
 ニ熟セサレハ教師ノ職ニ堪ヘス米國ニ於テハ
 許多ノ師範學校ヲ設立シ特ニ教師ヲ養成スレ

トヒ教師中往々授業法ヲ了解セサル者アリ故
ニ教師ヲ集メテ授業法ヲ講習スルヲ必要トセ
リ其法ハ有名ナル學者ヲ聘シテ授業法ノ演説
ヲ請ヒ或ハ教員中ヨリ出テ授業ノ法方ヲ論ス
ル等ナリ會合ハ概テ一年一次ナレトモ各郡各
市殆ト之ヲ開カサル者無ク全國中教員練習所
ノ數ハ幾何ナルヲ知ラス且其論説ハ新聞紙ニ
記載シテ世上ニ流布スルヲ以テ會合ニ出席セ
サル教師ト雖モ益ヲ得ルコト鮮ナカラズ
米國百年期博覽會教育報告卷三終

